

シリーズ「子どもの野生復帰大作戦」③ 大人も野生復帰だ！

地域ぐるみで自然体験活動を推進する「子どもの野生復帰大作戦」は、現在、子ども・大人のリーダーを養成する「自然体験学校」を中心に展開しています。

前回に引き続き、同学校を運営する竹野スノーケルセンター・ビクターセンターの本庄四郎センター長にご意見を伺いました。

子どもだけを野生復帰すべき対象として考えるのは、実はこの作戦の真のねらいではありません。そもそも、子どもたちを取り巻く自然環境や社会環境をこれほどまで劣悪に変貌させてしまったのは、ほかでもない大人たち、私たち自身なのだという自覚を持ちましょう。

戦争でペしゃんこになってしまった日本は、怒涛の勢いで高度経済成長を遂げました。

東京オリンピックや大阪万博、広がる高速道路、機械化農業、マイカー普及など、まさにイケイケの日本はまっしぐらに成長を進めましたが、同時にテレビ文化がCMとともに直接家庭に浸透すること

で劇的な画一化が進み、たくさん大切なものが失われてしまいました。一体どんなものが失われたのか、皆さんもそれぞれ考えてみてください。

失われたものの一つに「里山」があります。風呂や炊事の燃料がガスや灯油に変わったことで、薪が不要になり、家のすぐ裏にある燃料生産の場でもある「里山」との接点がなくなりました。

その結果、手入れがされないままに放置林となって、竹やツル植物に侵略され、イノシシなどの進入の誘い水になっているのです。手入れのされた里山は子どもたちの遊び場でしたが、人間が入れない里山では、それは無理なこと

のようです。よく「地域ぐるみで子どもを育てよう」と言われます。とてもよい言葉ですが、空っぽの精神論になっていないでしょうか。

そうならば、地域の自然をしっかりと管理しなくては子どもを育てることはできません。場をつくる、場を支える大人たちが、地域を大切にすることが大切なのではないでしょうか。

大人IIかつての野生児が自分たちの心を躍らせた舞台をしっかりと今の子どもたちにリレーしなくてはなりません。そのためには大人も自分たちの「野生度」を常に検証し、常に是正しなくてはならないのです。



▲大人の指導者養成講座「海の実習」の様子

テレビづけはダメ!!

～豊岡の教育を考える会～

市では、豊岡の子どもは豊岡の力で育むという視点に立ち、「教育行動計画」を策定しました。これを実現するには、学校・家庭・地域社会・行政に携わる者が課題を共通認識するとともに、具体的な取組みを共通理解することが大切です。

特に、家庭教育の責任者である保護者がどのような認識を持ち、どのような言動で子どもたちに日々接するかは、非常に重要です。

そこで、5月20日、PTAと学校関係者が一堂に会し、豊岡の子どもたちの現状とこれからの豊岡の教育について考え、共通認識に立った教育活動を推進する一助とするために「豊岡の教育を考える会」を開催しました。

会では、これからの豊岡の教育について次の提言がされました。

《問合せ》学校教育課

提 言

テレビの見せ方、テレビゲームをする時間をこの機会に考えていただくことが子どもの生活のリズムを見直すことにつながります。



- ◆「テレビの声より、家族の声」
- ◆「テレビの笑いより、家族の団らん」
- ◆「テレビの映像より、読書の感動」
- ◆「早寝、早起き、省テレビ」
- ◆「ゲームの汗より、運動の汗」

テレビを消すことでさまざまなことが見え、テレビやゲームよりもっと楽しい、もっと価値ある体験や遊びが生まれてきます。

そのためには、子どもたちの「望ましい生活習慣」の確立に向けた取組みを始めましょう。

何かをきっかけにして

行動を起こさなければ、

子どもは変わりません!